

平成 27 年度

# 事業報告書

社会福祉法人 追分あけぼの会

# 社会福祉法人追分あけぼの会

## 1. 平成27年度重点目標に対する評価

### (1) 職員自身が生活したいと思える施設づくり

職員自身が「自分が入所したいと思える施設にすること」が、職員のモチベーションが保たれ、大切な人材が確保されると考え目標に掲げましたが、今年度においては、人材育成システムが不十分であり、特に未経験者が入職した際の育成プログラムが不十分であったことから入職して間もなく退職する状況がありました。次年度においては、新規採用職員に対する育成プログラムの構築と同時に、新規採用職員又は経験の浅い職員へのフォローアップ体制を充実させるために、各事業所の責任者への人材育成等の研修等を充実し、新規採用職員等が不安なく就労できる体制を整備することが急務であり体制づくりに努めて参ります。

### (2) 相互理解の促進によるサービスの面的展開

今年度は、安平町において小規模多機能型居宅介護事業所を開設し、在宅で生活されている要介護高齢者の在宅生活がより永く継続することが可能となり、かつ、介護サービスの選択肢を増やすことができました。次年度以降も引き続き「地域住民のニーズ」と「地域で不足する介護サービス」について関係機関と協議を重ね、地域で必要とするサービス整備に努めて参ります。

### (3) 利用者視点でのサービスの質の向上と新たな価値創造

特養においては、入所者の平均要介護度が4.4（平成28年3月末日）となり、その他の事業所においても利用する方の要介護度が上昇し、重度化が全事業所において進行しております。今年度においては、重度化に対応するために先進施設と情報交換を行い、「利用者の状態把握の強化」及び「認知症の理解と対応力の向上」の2点を意識し強化して参りました。取り組みを開始してから間もなく評価するに値しませんが、入院者の減少等から着実に身を結んでいると実感しており、引き続きサービスの質の向上に繋げる取り組みに努めて参ります。

### (4) 人材の採用・育成の強化と長く働き続けられる仕組みづくり

就労するにあたり障害となっている条件等を求職者に聞き柔軟に対応することにより、様々な年代の求職者が多様な選択肢の中から就労することができ、採用に繋がるケースが多々ありました。また、幼少期から福祉への理解と関心をもってもらえるよう、安平町内の保育園及び小学校との交流、中学校及び高校の福祉学習、介護福祉士養成校の実習生受入れなど例年同様に実施いたしました。また、今年度の法人職員の資格取得状況については、社会福祉士1名、介護福祉士1名、介護職員初任者研修2名、認知症介護実践者研修1名、認知症介護リーダー研修1名、認知症対応型サービス事業管理者研修3名、小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修2名、キャラバン・メイト養成研修1名が資格を取得し、法人として支援することができました。

#### (5) 社会福祉法人としての使命の追求

今年度も社会福祉法人等利用者負担軽減事業及び当法人独自の利用者負担軽減制度を実施しました。特に、今年度は介護保険制度の改正により一部利用者の自己負担割合が変更しましたが、当法人独自の利用者負担軽減制度を活用することにより、自己負担割合が変更してもサービスを抑制することなく利用していただけたことから、地域の社会福祉法人として利用者に還元できたと考えております。また、今年度より地域貢献事業として法人職員を安平町内の関係団体等に講師として派遣し、認知症や介護サービス等を説明し、福祉の啓蒙活動を積極的に行いました。参加者の反響も良く好評であり、次年度以降は地域住民が「知りたい」ことを把握し、多様な要望に応えられるよう多くの職種が講師として派遣できる体制づくりに努めて参ります。また、地域住民を社会福祉法人が中心となって支えていく観点から、居宅介護支援事業所の開設を目指しておりましたが、今年度中の開設が困難となったため次年度の開設を目指し準備を進めて参ります。

#### (6) 経営と職員の融合

毎月責任者会議を開催し、収支状況を把握した上で、各事業の運営において「何をすべきか」「何を改善すべきか」を明確化し、運営の改善が収支の安定に繋がることを共通理解し責任者間で情報共有いたしました。小さな改善の積み重ねが収支の安定に繋がり、あらゆる数字が結果として現れることにより職員にとってもモチベーションの向上に繋がります。しかしながら、全職員の情報共有については課題が残っていることから、次年度も引き続き情報伝達方法について改善を図って参ります。

#### (7) 日本国内の地域を対象とした新規事業の開拓

当法人は一法人一施設であり、経営面・人材確保等の面からも非常に厳しい運営状況にありました。よって、国内において、様々な視点から鑑みて施設整備を進め、法人運営の安定が必要であります。今年度においては安平町内に「小規模多機能型居宅介護事業所華たば」を、神奈川県相模原市に「認可保育園きゃんばす東林間保育園」を開設し、当法人の運営の安定化はもちろんのこと、地域における多様な要望に対して、より柔軟に対応することが可能となりました。次年度も、引き続き様々な視点から鑑みて施設整備を進め、法人の運営がより安定し、利用者、家族、地域住民、そして職員に還元できる強固な法人となるよう努めて参ります。